

助成事業報告書(もあこめ活動について)

報告日付: 2025年 4月 15日

事業ID: 2024003173

事業名: きこえない小学生等を対象とした
手話言語習得の支援及び研究

団体名: 特定非営利活動法人

手話言語獲得習得支援研究機構

担当者名: 代表理事 物井 明子

TEL: 06-6748-0084 FAX: 06-6748-0089

〈事業の実施状況〉

1. 研究の実施について 別添の通り。

2. もあこめっこ(もあこめ)活動について

以下の表のとおり、対面とオンラインでの開催を実施した。

活動内容について、今年度は、小学1年生から6年生まで幅広い学年層が参加している。特に、土曜日の活動では平均して15名ほどの子どもたちが集まるため、昨年度に比べて、多人数で楽しめるグループ遊びを多く取り入れ、遊びの中で異なる意見が飛び交うことで子ども同士のやりとりが増えている。小学6年生が中心となって、遊びが進み、毎回良い雰囲気の中で、活動ができています。また、ろうスタッフの細かいルール説明など、手話での説明のみで理解して活動に参加できるレベルに達している子がほとんどである。

グループトークでは、クイズなども交えて自分の考えを手話で伝える時間、相手の話を見る時間としています。2023年度に比べ、手話の読み取り力、表現力が磨かれ、内容も深まったと感じています。

オンラインでの活動については、手話を主たるコミュニケーション手段として進めるが、手話表現がわからない時には身振り手振り、文字を使ったやり取りも多く見られる。遊びの中で、例えば、クイズの問題や回答の際には、手話で表現した後に指文字や書記日本語でも示すなど、手話と日本語を使いながら展開している。

対面もオンラインも共通して、子どもたちが安心して、気を張ることなく活動に参加することができています。とりわけ対面活動後の笑顔と元気な様子は、2020年の活動開始当初より見られていたものではあるが、今年度は特にその印象を強く感じています。

プログラム終了後は、スタッフの養成やプログラムの質の向上等の観点から、スタッフによるミーティング(その日のプログラムの振り返り等)を行っている。そのほか、子どもの手話言語獲得過程、親子間でのコミュニケーションの向上等を明らかにするために、毎回の活動をビデオカメラを設置して記録している。オンライン時にも画面を録画し、研究資源としている。

参加者人数等は以下の通りである。

○対面時の参加者人数等(2025年3月31日現在)

※場所はいずれも府立福祉情報コミュニケーションセンター

もあこめ参加実人数: 46名 述べ参加人数: 346名

放もあこめ参加実人数: 11名 述べ参加人数: 62名

合計 参加実人数: 46名 (もあこめと放もあこめで重なる子どもは省いている)

延べ参加人数: 408名

もあこめ(第1、3土曜日)

	日時	参加人数 (子ども)	参加人数 (保護者)	総合研究 統括者	指導員	言語習得支援 スタッフ	見学者
1	4月6日(土)	8	9	1	4	13	4
2	4月20日(土)	19	20	1	4	10	3
3	5月11日(土)	21	17	1	4	9	0
4	6月1日(土)	13	14	1	4	9	1

5	6月15日(土)	22	23	1	4	14	2
6	7月6日(土)	22	25	1	4	11	4
7	7月20日(土)	9	8	1	4	14	3
8	8月3日(土)	9	9	1	4	8	2
9	8月17日(土)	10	9	1	4	11	1
10	9月7日(土)	12	10	1	4	10	1
11	9月21日(土)	18	19	1	4	11	2
12	10月5日(土)	14	12	1	4	10	0
13	10月19日(土)	12	11	1	4	9	0
14	11月2日(土)	16	19	1	4	8	1
15	11月16日(土)	19	17	1	4	14	0
16	12月7日(土)	16	13	1	4	10	1
17	12月21日(土)	19	17	1	4	8	0
18	1月18日(土)	15	11	1	4	9	0
19	2月1日(土)	15	15	1	4	14	3
20	2月15日(土)	20	15	1	4	11	4
21	3月1日(土)	19	17	1	4	9	2
22	3月15日(土)	18	12	1	4	13	0

放課後もあこめ（第2、4金曜日）

	日時	参加人数 (子ども)	参加人数 (保護者)	総合研究 統括者	指導員	言語習得支援 スタッフ	見学者
1	4月12日(金)	4	2	1	1	2	0
2	4月26日(金)	4	3	1	1	2	0
3	5月10日(金)	3	2	1	1	2	0
4	5月24日(金)	3	2	1	1	2	0
5	6月7日(金)	2	1	1	1	2	0
6	6月21日(金)	3	2	1	1	2	0
7	6月28日(金)	2	1	1	1	2	0
8	7月26日(金)	1	1	1	1	2	0
9	8月9日(金)	3	2	1	1	2	0
10	9月27日(金)	1	2	1	1	2	0
11	10月11日(金)	1	1	1	1	2	0
12	10月25日(金)	3	2	1	1	2	1

13	11月8日(金)	4	3	1	1	2	0
14	11月22日(金)	3	2	1	1	2	0
15	11月29日(金)	3	2	1	1	2	0
16	12月13日(金)	3	2	1	1	2	0
17	1月10日(金)	3	2	1	1	2	0
18	1月24日(金)	3	2	1	1	2	0
19	2月21日(金)	3	2	1	1	2	0
20	3月7日(金)	3	2	1	1	2	0
21	3月21日(金)	3	1	1	1	2	0
22	3月28日(金)	4	1	1	1	2	0

○オンライン（双方向支援）時の参加人数等（2025年3月31日現在）

参加実人数：4名 述べ参加人数：70名

	日時	参加人数 (子ども)	総合研究 統括者	指導員	言語習得支援 スタッフ
1	4月10日(水)	3	1	1	1
2	4月24日(水)	4	1	1	2
3	5月8日(水)	3	1	1	1
4	5月22日(水)	4	1	1	2
5	6月5日(水)	2	1	1	2
6	6月19日(水)	3	1	1	2
7	7月10日(水)	3	1	1	2
8	7月24日(水)	4	1	1	2
9	9月11日(水)	1	1	1	1
10	9月25日(水)	4	1	1	1
11	10月9日(水)	4	1	1	2
12	10月23日(水)	3	1	1	1
13	10月30日(水)	4	1	1	1
14	11月6日(水)	1	1	1	2
15	11月20日(水)	4	1	1	1
16	12月11日(水)	3	1	1	2
17	12月25日(水)	4	1	1	2
18	1月22日(水)	3	1	1	2

19	2月5日(水)	3	1	1	0
20	2月19日(水)	4	1	1	1
21	3月5日(水)	2	1	1	2
22	3月26日(水)	4	1	1	2

3. もあこめ手話合宿について

2023年度から実施している、もあこめ手話合宿について、2024年度は、小学校低学年（小学1年生～3年生）と小学校高学年（小学4年生～6年生）に分かれて実施した。もあこめ手話合宿は、集中的な活動による手話言語のスキルアップを目的に、「手話言語習得支援事業に関する研究」の一環として活動し、加えて、仲間との関係作りによって、今後のもあこめ参加の意欲が増し、結果として手話言語習得の継続につながることをねらいとした。

それぞれの合宿の詳細については表1の通りである。

表1

対象	低学年（小学1年生～3年生）	高学年（小学4年生～6年生）
日程	2024年8月6日～8日	2024年8月20日～23日
場所	アミティ舞洲 （大阪市舞洲障がい者スポーツセンター）	吹田市自然体験交流センター・わくわくの郷
スタッフ	指導員3名 言語習得支援スタッフ6名 （ろうスタッフ4名 聴スタッフ2名）	指導員3名 言語習得支援スタッフ5名 （ろうスタッフ3名 聴スタッフ2名）

プログラムについては、それぞれの対象年齢に合わせて、手話言語を意識した遊びを取り入れて、指導員を中心に総合研究統括者の提案、助言の下、考案した。低学年、高学年それぞれ、支援スタッフとの打ち合わせを3回実施し、合宿中の流れ、遊びのイメージ等を共有した。

手話合宿を実施した結果、終日、手話で会話ができる環境にすることで、手が自然に動くようになった。そして、手話の上達に限らず、心理面でも重要な体験を提供することができた。全体のスケジュール、1日の流れや前後の動きを確実に把握できること、相手の行動に関する情報も理解できることによって、子どもたちは安心して能動的に動いていた。ろう者を中心に手話が堪能なスタッフ、同年代の仲間と過ごすことによって、自分らしく自然体で過ごせる快さと共に、自己効力感を味わえた印象を受ける。それは、きこえないこと（目で生きること）に関する自己認識やアイデンティティ形成に役立っただろう。合宿後の活動にも、生き生きと積極的に参加している。

合宿後、子どもたちの変化や語りについて、

- ・声なしの手話だけになっていた。
- ・日が経つにつれ、合宿でこんなことをした、友達と話した、スタッフとこんなことを話したと少しずつお話をしてくれた。
- ・ことばの数が増えたと思う。ことばの世界がもっと広がったら良いと思う
- ・帰宅した翌日に、すごく自然に手話で話していて、合宿の成果を感じました。

といった感想が届いた。

なお、昨年度実施した小学5年生4名(2023年当時)を対象とした「2023年度もあこめ手話合宿の試み」については、2024年度の日本特殊教育学会 第62回大会にてポスター発表を行なった（資料1の研究報告書に掲載）。